

# 防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会  
会報 第58号 (2011. 12. 31)  
事務局 川西地区自主防災会

## かがわ自主ぼうの一層の御発展を

香川県防災局長 丹 睦宏

かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様、新年あけましておめでとうございます。

共助の要としての県内各地の自主防災組織の能力向上、強化に、多大な御尽力をいただき、誠にありがとうございました。本年も引き続き御支援いただきますようお願い申し上げます。

さて、2011年「今年の漢字」は、「絆」になりました。東日本大震災や台風被害で家族の大切さを感じ、支援の輪も広がったことに加え、女子サッカー・なでしこジャパンのチームワークも選ばれた理由に挙げられたそうです。



自主防災組織も地域の絆に結ばれて、初めて成り立つものだと思います。その絆の強さが地域の力の強さになると思います。東日本大震災の報告では、避難所の運営がうまくいっていたのは、自治会や自主防災組織がしっかりしている、地域の

力があるところだったそうです。また、実際に訓練していたこと以外はできなかったそうです。このようなことから、県では、来年度、自主防災組織の訓練に対する新たな補助制度を創設します。具体的には、小学校区を単位として、自主防災組織が地域の子どもたちや保護者などと一体となって行う実践的な訓練を行うための経費の一部を市町に補助しようと考えています。このことによって、既に活動している自主防災組織の育成強化や未結成地域の結成促進、さらには、訓練を通じて地域コミュニティの力が向上することを期待するものです。

かがわ自主ぼう連絡協議会は結成5年となり、参加組織も増え、活動内容も充実してきており、県内の自主防災組織の活動カバー率や活動内容の向上にも中心的な役割を果たしていただいております。我々も皆さんの活動をしっかりと応援していきたいと考えていますので、引き続きよろしく願いいたします。

最後になりますが、かがわ自主ぼう連絡協議会のみならずのご発展と会員、ご家族の皆様のご活躍、ご多幸を心からお祈りいたします。





～～ 香川大学共催 ～～  
二番丁地区コミュニティ継続策定プロジェクト  
「生き残り作戦」 実施記録

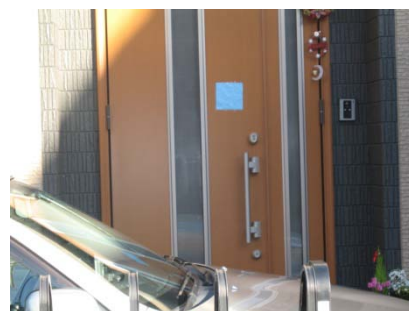
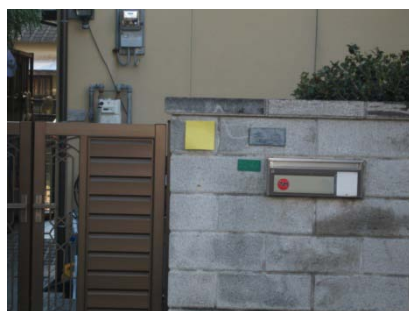
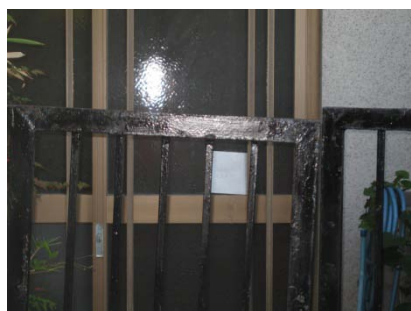
二番丁地区コミュニティ協議会  
自主防災組織連絡協議会  
会長 川口 秀明

1. 実施日 平成23年12月4日（日）
2. 実施場所 高松市二番丁地区扇町愛扇自治会・二番丁コミュニティセンター
3. 目的 情報伝達避難訓練、救出搬送訓練、及び、炊き出し訓練
4. 内容 ① 午前9時、震度6弱の地震が発生したと想定し、訓練を開始。  
② 各戸ごとに安否を伝える印を掲示し、避難開始。

白色（空家、一人暮らしで入所）

黄色（自宅で安全に待機）

青色（避難完了）



③ 第一避難場所（扇町公園）へ避難



④ 避難者の安否の報告を確認

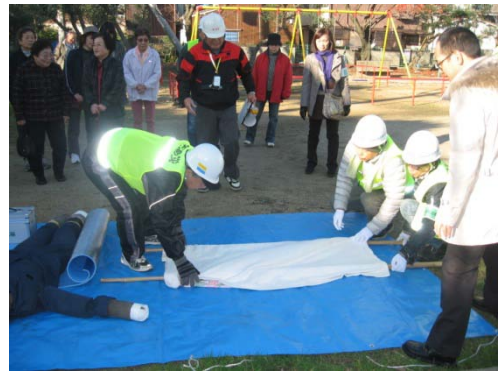


川口会長

⑤ 情報班が安否確認に出動



⑥ 負傷者の報告を受け、救出活動準備



⑦ 救出班は、担架、車椅子で負傷者の救出



⑧ 救護班による応急手当



⑨ 広域避難場所（新番丁小学校）へ向け出発



⑩ 新番丁小学校到着、反省会会場（二番丁コミュニティセンター）へ移動。



⑪ 香川大学危機管理研究センター  
白木センター長の挨拶



⑫ 講演後のワークショップでは、参加者が、  
反省点などを話し合い。



⑬ ワークショップでの意見を発表



⑭ 長谷川教授、野々村准教授の講評



⑮ 最後は、女性防火クラブによる炊き出し訓練



## 5. 防災訓練を終えて

訓練当日は、天候に恵まれ、多くの自治会員の参加があった。今回の目的である安否確認の情報伝達は、自治会全世帯の協力により、色紙による安否情報の表示を玄関に出してもらい、安否の確認がスムーズに把握できた。初めての訓練としては上出来であった。

班長・支援者や本部（香川大学工学部野々村准教授が担当）との連絡は、当自治会には無線機がないため、今回の訓練には携帯電話を使用した。避難状況の報告も的確に、細かくでき、全ての訓練が、予定の時間内に終了することができた。

訓練終了後は、コミュニティセンターに集まり、气象台の方の講演会に参加し、その後ワークショップを実施し反省点を話しあった。

今回の防災訓練の反省点や香川大学の先生方のアドバイスを今後の防災訓練に生かしていきたいと思っている。

最後に、本日の訓練に協力していただいた香川大学の先生、学生、コミュニティセンター職員、女性防火クラブの方々に、心より感謝申し上げます。

## 平成 23 年度琴平町総合防災訓練への取り組み

琴平町役場 総務課  
主任 森 雄 二

### はじめに

琴平町は、過去に大きな災害もなく今日まで過ごしてきたことで、住民の防災意識が低調であり、地域での取り組みにばらつきがあるため、早急な防災に対する地域力の向上、底上げが課題となっていました。

そこで、3月11日に発災した東日本大震災を教訓として、東南海・南海地震に備え、避難訓練や救助訓練などを行うことにより町民の防災意識の向上を図り、本町の防災体制を強化することを目的とした総合防災訓練を今までに行ったことのない規模で実施しました。

### 1. 町として初めての防災訓練の実施に向けた事前準備

初めて総合防災訓練を実施するのにあたり、住民の方々の防災意識を高めるために、10月18日に「備えあれば 憂いなし（南海地震に備えて）」をテーマに香川県防災局の乃田防災指導官をお招きして防災講演会を行いました。115名の方々の参加を得て、阪神淡路大震災の実体験をもとに、南海地震への備えについて具体的にどのような準備をすべきかご指導を賜りました。

また、事前に住民の防災知識を高めていただくために、パンフレット「みんなで減災」を作成し全戸に配布致しました。



訓練の実施に向けて地域住民や関係機関、関係団体等で構成する防災訓練実行委員会を立ち上げて、訓練の内容やスケジュールなどを検討しました。地域住民から避難訓練の重要性についてのご意見を踏まえ、各単位自治会において、災害時にどのように会員の安否確認を行い、安全に避難所へ誘導できるか地域内で話し合ってもらおうこととしました。

訓練のために備えるのではなく、発災時にいかに効率よく指定避難所まで安全に避難できるかシミュレーションを行うことが重要であると感じていたため、町において琴平小学校区内の63の各単位自治会長宅を訪問し、訓練に対する説明や当日までの準備、当日の行動、訓練を終えて課題点の整理などについて、地域のなかで話し合ってもらおうように説明しました。温度差はあるものの自治会長の意識は高く協力的でした。

このような準備を踏まえ、防災意識が高まっている感触を持ちながら当日の訓練をむかえる予定でしたが、天気予報をみると雨マークが出ており、ある程度は想定していたものの住民がどれほど避難行動をとってくれるか心配になりました。また、体験訓練の内容についても再考する必要が生じていました。

## 2. 総合防災訓練当日

訓練当日は、想定以上の大雨で準備の段階でどれだけの人が避難行動をとって会場である琴平小学校に避難してくるのか不安な状況のなか、午前8時に発災の合図として、サイレンを吹鳴し、広報車や消防車により避難勧告を行い、各单位自治会へ避難行動を呼びかけました。単位自治会のなかには会員が地域の中の一時避難場所へ避難し、本番さながらに安否確認や要援護者台帳に基づき支援者が要援護者宅を訪問し安否確認も行い、共助の精神のもと自治会長を中心として取り組んでいました。

小学校の校庭に設置した受付ブースに住民の方々が続々と避難し、代表者が避難状況を報告し体験訓練用のゼッケンを受け取り体育館へ集合してきました。



雨の降りしきる中の訓練ではありましたが、約600名の住民の方々が避難訓練などの行動

に参加して頂き、私の心配は吹っ飛びました。

受付終了後、体育館では、丸亀市川西地区自主防災会の岩崎会長様から「東日本大震災の被災者支援活動を通じて今後の自主的な防災対策への取り組み」について映像を交えてご講演をいただきました。参加者は、真剣な表情で映像をみながら、注意深く岩崎会長のお話を聞いて頂きました。



体験訓練は、運動場でバケツリレーや水消火器での消火訓練、土のうづくりを計画していましたが、雨のため体育館でAED講習や簡易担架の製作、搬送訓練、ロープワーク体験を行っていただきました。

参加者の皆さんは、真剣な表情で指導者の方々の説明に耳を傾け、訓練に取り組んで頂きました。

### 【AED講習】



### 【ロープワーク】



【簡易担架の製作、搬送訓練】



体育館の中でアルファ化米の炊き出しについての説明や防災ずきんの作り方講習なども行いました。



また、体育館前では雨の降りしきるなか、川西地区自主防災会が備蓄している備蓄品等の展示をはじめ、協賛いただいた企業による防災グッズの展示や災害時伝言ダイヤルなどの体験ブース、災害対応型自動販売機の展示、災害用浄水器などの展示が行われました。



婦人防火クラブの皆様によるアルファ化米とうどんの炊き出し訓練も同時に行い、参加者の皆さんに振る舞っていただきました。



最後に、全体の訓練について、岩崎会長様から講評をいただき、防災訓練は幕を閉じました。

### 3. 総合防災訓練を終えて

今回の総合防災訓練を終えて、地域の中で様々な課題や問題点が浮き彫りになっていると思われるため、早速自治会長にアンケート調査を行っています。このアンケートによる課題を整理したうえで、反省会を開催し、来年度以降につなげたいと考えております。なお、来年度は榎井小学校、再来年度は象郷小学校で行うことを計画しています。

地域の皆様がより多く参加し、各個人での備えに対する意識を向上させること、地域の中で支え合う仕組みづくりや行政としてどのような準備が必要であるかなど災害が発生するまでに行わなければならないことがたくさんあることを再認識する機会となりました。

### おわりに

本町で初めて防災訓練を実施することになり、特に丸亀市川西地区自主防災会の岩崎会長様をはじめとした会員の皆様には準備の段階から実行委員会に参加して頂き、ご指導を賜り無事訓練を終了することが出来ました。

また、地域住民の皆様が熱心に防災対策について考えていただいていることが再認識できたこと、関係機関、団体、企業の皆様の惜しみない協力を得られたことなど訓練を通して得るものがたくさんありました。

来年度は、今年よりも一層進化した形での訓練として実施したいと考えています。



# 事務局だより

平成23年12月

12月は今年の総括です。

一步一步前進です



国難だった2011年も、県内の自主ぼう組織の支えあいや、励ましなどによって乗り切った1年のような気がいたします。自主ぼうの活動は、イコールまちづくりであるがゆえに、地域の中での取り組みに、神経を使うことも多々あります。それゆえに地道ながらも一歩ずつ前進させていくことは、街の活性化に結びついているなあ〜と、実感することがあります。

新たな年を迎え、大きく飛躍する、かがわ自主ぼう連絡協議会となることを誓って、新春の事務局だよりとします。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 編集後記

今月の防災減災の輪の原稿は、香川県防災局、二番丁地区コミュニティ協議会と琴平町役場にお願ひしました。

丹局長、川口会長、森主任、誠にありがとうございました。